

ミシシippiがくれたもの

パック作 斎藤倫子訳 東京創元社

一九一六年、ミシシippi川沿いの父の実家を初めて訪ねた十五歳の私に祖母は、人種問題から起きた南北戦争が影を落とす少女時代の思い出を話してくれた。南部からミシシippiを渡って現れた謎の美少女と一緒に暮らし始め、祖母の双子の兄が北軍の兵隊となり、肌の色や戦争がそれぞれの人生を動かしていく。

苦難の中、自分の意思を持って生き抜いた少女たち。それぞれの時代を力の限りに生きた人がいたからこそ、今、自分がここにいます。そんな気持ちにさせてくれる一冊。

